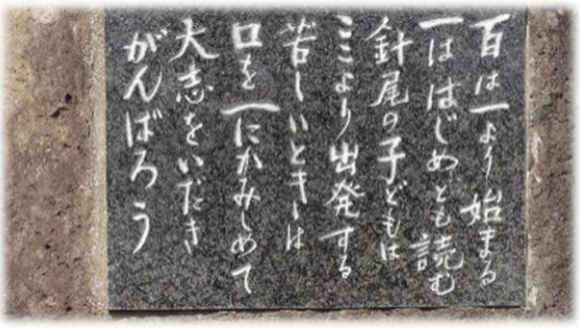
令和７年度　「特色ある学校づくり対策事業」実践事例



【　学　校　名　】佐世保市立針尾小学校
【　所　在　地　】佐世保市立針尾中町１８６３番地
【　校　　長　】前川　直樹
【 学 校 規 模 】児童数　１０７名　　学級数　８学級　（令和７年５月１日現在）
【学校教育目標】一人一人が目標をもち、心豊かで、主体的に学び続ける児童の育成

１　テーマ

＜めざしたい学校の姿＞　**豊かなかかわりの中で、一人一人が輝く学校**

＜今年度のキーワード＞　**「前進」**

～　　一人一人・一緒に・一歩一歩　　～

「当たり前のことが　当たり前にできる学校」

２　目　的（こんな子どもに）

（１）　**は**りきる子

・目標をもち、粘り強く取り組む子ども
・新しいことに挑戦する子ども

（２）　**り**かいする子

・進んで学び、工夫する子ども
・よく聞き、自分で考え、発表する子

（３）　**お**もいやる子

・仲良く助け合う子ども
・さわやかな挨拶ができる子ども
・美しい言葉遣いをする子ども

３　実践内容

（１）学力向上

〇学力テスト

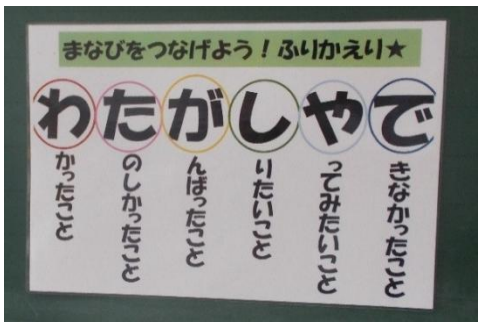
１２月１７日に国語科と算数科の学力テストを全学年で実施した。その結果を分析し、課題を職員で共有することができた。これらの取組により子どもたちの学習への意欲の向上が少しずつ見られ、保護者の家庭学習への意識も高まってきた。

〇主体的に粘り強く学習に取り組む児童の育成を目指す授業研究

確かな学力をつけるために校内研修では、学びの見通しとふり返りを大切にする算数科の授業改善に取り組んだ。昨年度から、ふり返りのキーワードを「わたがしやで」とし、ふり返りの視点を児童に示している。継続することで、キーワードも定着しつつある。

また、一人一台端末（タブレット）のフォームを活用し、ふり返りを行うことで、一人一人の考えを全体で共有することができた。

さらに、今年度は、算数科の基礎学力の向上のために、全校一斉に朝の時間を活用して「算数チャレンジタイム」を実施した。月に１回、「スーパーチャレンジタイム」として同じ問題に取り組むことで多くの児童が満点を取ることができ達成感を味わうことができた。



〇読書活動の推進

学校司書と連携し、子どもたちの読書活動を推進し、学校全体の読書量と質の向上を図った。司書教諭と図書担当が中心となり、多読者を表彰したり、読書ビンゴや家庭での親子読書の啓発を進めたりしたことで、今年度の貸し出し冊数は、１１，０００冊を超えることができた。（目標は、１２，０００冊。）

〇基本的生活習慣の定着

学校保健委員会を中心に家庭と連携し、学力向上につながる基本的生活習慣の定着を図った。年２回、「生活リズムチェックカード」を活用した取組を行うことにより、よりよい生活リズムを整え、家庭学習の習慣化にも結び付いている。

（２）交流連携

〇地区の高齢者の方への「敬老の日」お祝いの手紙

児童が地域に関わる活動の一つとして、地域の高齢者へ敬老のメッセージを送ることにより、地域を支えてこられた人々に感謝の気持ちを伝え、交流を図ることで思いやりの心を育むことができた。

○「保育園・幼稚園との交流活動」

５年生が保育園に出向き、一緒に砂場遊びや鬼ごっこをして、園児と交流を深めた。さらに、保育園と幼稚園の年長児が学校を訪れ、１・５年生と交流した。１年生は、お兄さん、お姉さんとして、５年生は、最高学年として、新１年生の入学を心待ちにし、お世話をしていきたいという意欲が高まった。

○「フラワーアレンジメント教室」

卒業式を控え、６年生の教室や来賓の控室を花で飾るために、講師（保護者）を招いて「フラワーアレンジメント教室」を行った。花の種類や特徴を生かしなら、グループごとに一つずつ花を活けていった。それぞれ熱心に話し合いながら華やかなフラワーアレンジメントを作ることができた。

（３）食農体験・栽培活動

○みかんの栽培

ＪＡながさき西海青年部の指導を受けながら、地域に根ざした生産活動（摘果・マルチ敷き・収穫）を通して、人々の努力や工夫などに気付くとともに生産する苦労や喜びを感じることができた。針尾の特産品であるみかんについて学び、ふるさと針尾のよさ学び、ふるさと愛を育てる学習になった。

（４）その他

〇食物アレルギー研修会

毎年、年度当初に学校医の先生を招いて「食物アレルギー研修会」を行っている。本校は食物アレルギーの児童の割合が高く、いざという時のためにその症状や対応の仕方、エピペンの使い方等の研修を行っている。給食配膳後も職員２名で、誤食がないようダブルチェックしている。

４　おわりに

今年度も外部との連携や地域との交流を大切にし、「特色ある学校づくり事業」の予算を活用し、地域ともにある学校を目指して取組を行ってきた。特に３年生の「みかんの栽培」は毎年、JA ながさき西海農協青年部のご協力をいただきながら、地元に根付いている活動である。子どもたちも３年生になると楽しみにしている。これからも大切にしたい活動である。

また、保幼小連携にも力を入れていきたい。保育園児や幼稚園児を喜ばせるための活動を考えることにより、相手意識が生まれる。実際に接することで、言葉遣いに気を付けたり、相手の様子を伺ったりして優しく接することで思いやりの心を育てていきたいと考える。

来年度も、地域の豊かな自然や人材を生かし、地域や家庭と連携しながら、地域に深く根ざした「特色ある学校づくり」を目指していきたい。